

# 一過疎からの脱皮を目標に一緒川村

緒川村総務課

## 沿革

緒川村の発祥については発掘された、土器、石器などによって約5,000年前頃すでに人間が生活していたことが証明されています。その後、南北朝の時代に佐竹の一族によって城が築かれ、ほぼ現在の緒川村が支配下となっていた。降つて江戸時代には水戸徳川家の領するところであった。

明治21年市町村制の公布により、緒川村の前身である八里村、小瀬村が誕生した。この間、明治9年には、地租改正をめくり、本村を中心とした大規模な農民一揆が発生している。

昭和31年9月、町村合併促進法により、前記の八里、小瀬の両村が合併し緒川村として発足、現在に至っている。

## 人口

合併前の昭和30年、人口は8,836人であったが、35年8,037人、40年7,213人、45年6,295人と減少の一途をたどり、減少率では県下最高を示し、昭和45年7月過疎町村の指定を受けた。

第1表

(単位:人,世帯)

年次	人口			世帯数
	総数	男	女	
昭和30年	8,836	4,268	4,568	1,610
35	8,037	3,857	4,180	1,558
40	7,213	3,453	3,760	1,517
45	6,295	3,034	3,261	1,460
47	6,159	2,961	3,198	1,459

注) 各年とも国調人口、47年のみ住民基本台帳簿による推計人口。

しかも人口流出のほとんどは若年労働力であり、それにつれ出生も激減、昭和39年の出生131人に比べ46年は69人と約半減した。

## 産業

主産業は農業であり、特に葉たばこの産地として県下でも有名である。しかし、近年は、土地生産性の高い畜産が大きく伸びてきており、中でも養鶏は、この10年間に10万羽以上も増え飛躍的發展をとげている。また小規模ではあるが、逐次工場も増えつつあり、近い将来には産業構造も大きく変わってくるものと思われる。



〔村民運動会模様〕

## 教育

幼児教育については、2カ所に幼稚園を設置し全員入園の実績を上げている。また社会教育の場としての中央公民館も、昭和45年に竣工し婦人会、老人会、青年会などに効果的に利用されている。さらに村民憩の場としての中央グラウンドも他町村に先がけ昭和41年に完成し、村民運動会、お父さんソフトボール、ママさんバレーボール、野球大会など大いに活用されている。特に村民運動会には村民の約半数が参加、ママさんバレーボールには17の部落から28チームが参加し体力づくりあるいは村づくりに貢献している。

## 財政

過疎化の現象により、財源は逼迫しており歳入総額の約50%が地方交付税であり、これに村債、国、県支出金を合わせると実に依存財源は83%にのぼっている。村税は全体の7.7%にすぎない。

歳出の面では、統合中学校の建設、教育設備の充実に力を入れているため教育費が約37%を占めている。道路面では、林道の開設、村道の改良と舗装、農道の改良が急ピッチで進められている。

## 将来の計画

まず、過疎からの脱皮が第1目標となっている。しかしながら、基本はあくまでも住民尊重の行政であり、「平和的住みよい」村づくりであるので、この主旨にのっとって工場誘致をはかり、豊かな自然環境を生かした青少年旅行村の建設などにより、人口の増加をはかると共に、一方では母子センターの建設、保育所の設置と福祉行政の推進に努めることとしている。

## 統計ニュース

### ◇ 12月の主な行事 ◇

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| ○ 1～3日 昭和48年住宅統計調査第2次試験実地調査日 | ○ 12～15日 昭和48年農業基本調査説明会 |
| ○ 5～7日 統計主事資格認定講習会           | ○ 31日 昭和47年工業統計調査日      |
| ○ 8日 法人企業統計解析研究会             | // 昭和47年茨城県工業実態調査日      |
|                              | // 茨城県小規模事業所給与等実態調査日    |

### ■ 全国統計大会が開られました ■

——“統計需要の拡大に対応する調査環境の整備”を議題に——

全国統計協会連合会の主催による第23回全国統計大会は10月26日（木）福島市・福島文化センターで開催されました。

大会は全国から集まった、統計関係者約2,000名が参加し、恒例の統計功労者表彰やグラフコンクール入選者表彰、郷土芸能などが行なわれました。

また、今回の議事は、「統計需要の拡大に対応する調査環境の整備について」と題し、これについて活発に

議論されましたが、その結果、国への要望として、

- 1 中央相互調整機能の充実
- 2 調査員制度の確立
- 3 国民の統計の理解を深める

の3点が決議されました。

なお、本県からは各省大臣表彰受賞者をはじめ、100名が参加しました。

### ■ 第14回茨城県統計大会標語の募集結果 ■

統計は未来にかける虹の橋

統計は明日の郷土の道しるべ

第14回茨城県統計大会は11月16日盛会裡に終わりましたが、これに先立ち、県統計課と県統計協会では、大会標語を統計課職員から募集しました。

これに依って、総数で51点が応募されましたが、なかには1人で28点もの作品をだした方もいて、その熱心さには驚かされました。

審査は同課の青木課長、斉藤・宮永両課長補佐の3人の審査で行なわれ、その結果、次の

○ 統計は未来にかける虹の橋

○ 統計は明日の郷土の道しるべ

の2点が入選と決まりました。

作者は2点とも、同課主事黒沢弘忠氏のものです。

この標語は統計大会場である県民文化センターの舞台両袖にかかげられたほか、プログラムのなかにも印刷され大会参加者の注目をあつめていました。